

BMS 幹事会議事録及び定例会メモ (2004 年 7 月 9 & 10 日)

幹事会出席者 (50 音順): 鐘尾, 佐藤, 須井, 田中, 中村, 羽倉, (石原, 加藤, 川上)

1. 次回 BMS 定例会は JEMS 大会の初日(11 月 30 日開催予定)の夕方に行われ, 他の研究会との合同開催となる。また, 今後の定例会の開催については他の研究会との意見調整が行われる。
2. 今回の定例会総会で 2003 年度の会計報告をまとめることができなかった。会計監査を行い, 幹事会で了承されたものを後日報告することで, 定例会総会にて了承された。会計監査 1 名を幹事から選出する必要がある。
3. 今年度末に, 幹事の選挙を行う。選挙管理委員会 (2 名) を幹事から選出する必要がある。
4. 次回の定例会 (来年春季) での定例会世話人を募集する。定例会の世話人の仕事は, 会場の確保が主である。実際の細かい仕事は幹事が中心になって行うので, 積極的に手を挙げてほしい。
5. 会員の意思継続を確認しながら, 新しい会員名簿を作成する。担当は庶務が行う。
6. 会員枠を広げてほしいとの要望があった。取り扱う内容が広い点や会費の面で JEMS には参加しにくい, BMS の活動内容は仕事上必要なため BMS のみの会員となりたいたいという意見があった。この場合の規約として, 会員は原則として JEMS 会員とするが, JEMS 会員でない入会者希望は会長判断あるいは数名の BMS 会員の推薦とする, という案がでた。現在の BMS 研究会の規約上, BMS 会員になるには JEMS 会員であることとなっている。しかし, JEMS の会員数を維持するためにも, また BMS の会員数を増やすためにも BMS のみの会員枠を設けるとするのは魅力的だが, BMS は JEMS 公認研究会ということもあるので, 評議員会等への相談も含めて, この要望について検討していきたい。
7. BMS 活動の実情に合わせて, また, 今後の研究会活動を容易にするためにも 2005 年の定例会の時に研究会規約を改定する必要がある。主な変更点は, 1) 定例会の開催を年 2 回以上とあるが, 1 回以上にする。2) 庶務や会計担当幹事は, 現在は幹事から選出されるとあるが, 幹事以外の会員からも会長指名で選出できるようにする。3) 「名誉会員」をなくし, 会員か非会員というようにシンプルにする。4) 定例会時に, 会計報告は前年度についての報告を行うことを明記する。5) 事務局の場所は, 日本生物化学センターとなっているが, 庶務担当幹事の所属する研究機関とする。
8. 今までの BMS 共同研究で得られたデータが, 今までの共同研究世話人, 特に加藤会員のおかげで集まってきた。論文誌上で未発表なものは, 各共同研究グループの世話人と相談しながらノートのような形でまとめ, home page 上での公開, あるいは環境変異原研究へ投稿して誌上での公開を引き続き目指す。

9. 本定例会で議論された Ames 試験 Q&A は各グループ内での幹事がまとめたものを庶務にまで送る。今回議論された Q&A の Q は home page 上に後日公開するが、この Q に関する回答を会員から募集する。この Q&A は最終的に公開したい。
10. 定例会総会で JEMS 能美会長の意向で太田理事から BMS の活動内容について助言・提言を受けた。
11. BMS の今後のありかた、会員のニーズがアンケート結果（BMS の home page で公開したい）や今回の定例会での議論を通じて大まかに把握できた。BMS は会員のニーズが多様であるが、最大公約数的に、BMS の活動内容は、信頼性の高い Ames 試験技術の普及、試験担当者への最新の研究成果を含む知識の移譲、試験技術に関わる未解決の課題の解決する研究会としたい。また、相当数の会員から共同研究を行いたいというニーズも強く、BMS 会員内での自主的共同研究については積極的にこれを支援・奨励するものとしてほしい。共同研究を行う目的のために研究会を存続させるのではない。今後、JEMS 内でも各研究会のあり方が議論されると思われるが、今後、しばらくはこの方針で行きたい。

（文責：羽倉）